

かつて、親鸞聖人のお念仏の教えをいただきつつ、  
仲間と共に非戦平等を唱えた僧侶がいました。



大逆事件に学ぶ

# 遠松忌法要 **日帰り** バスツアーのご案内

「前を訪う 今、この時代に聞く非戦・平等の願い」

昨年初めて実施し、大変好評のうちを終えることができましたバスツアーを今年も実施します。かつて明治時代、親鸞聖人の教えをその身に受けとめつつ、思いを同じくする仲間たちと共に、非戦平和を唱えた僧侶がいました。それが高木顕明です。のちに彼らは国家によって冤罪に処せられ、顕明自身はさらに東本願寺から除名されてゆきま。それでも信念にもとづき、信仰に生きようとした彼の行動は時代を超えて我々の心をうつのです。ぜひご参加ください。

開催日 **2015年6月20日(土)**

講師：梶原敬一氏（真宗大谷派僧侶、姫路医療センター小児科医長）  
講題：「地獄は一定すみかぞかし」

開催日程

8:00	難波別院集合 ～移動・バス内で昼食（お弁当付）
13:00	新宮・浄泉寺にて法要参拝
16:00	法要終了後、関係事跡観光
17:00	新宮出発（途中SAで各自夕食）
21:00	難波別院帰着（予定）

参加費用 **8,000円／1名（定員約40名）**  
お昼ごはん（お弁当）をご用意いたします。  
移動中、オリジナルビデオによる学習を行います。

主催：大阪教区教化委員会



氏名	電話番号	性別
住所	年齢	
【通信欄】		
※ 定員 (約 40 名) になり次第、締め切り日を前に締め切る場合があります。ご了承ください。		

申込締切：2015年6月5日

## ごあんない

明治の時代に和歌山県新宮で、差別と貧困に喘ぐ被差別民と共に同苦した真宗の僧侶、高木顕明師がおられました。師は日露戦争の開戦に新宮の仲間と共に反対したことなどにより国家から思想弾圧を受け「大逆事件」に連座し無期懲役刑に処せられ、真宗大谷派は師を擯斥（永久追放）に処しました。教団が追い出したことにより出獄しても帰る寺がなくなった師は1914年に秋田監獄で縊死されたのです。教団が慚愧の念をもって顕明師の復権を行ったのは1996年です。実に86年間も私たちは顕明師を時代の闇に葬ってきたことになります。

2000年に新宮市の各所で開催された「大逆事件」から人権を考える「人権と文化 新宮フォーラム 2000」に参画し、それ以来毎年、真宗大谷派主催による遠松忌法要を勤めております。顕明師が亡くなられて100年の節目の 때가過ぎようとしています。そこで昨年の遠松忌は100回忌法要として勤めさせていただきました。

遠松忌法要は「前を訪う 今この時代に聞く非戦平等の願い」のテーマを掲げています。今、この時代に何が起きているのでしょうか。原発事故の収束は全く見通しがつかないまま原発の再稼働の準備が進み、震災の復興もままならないのに東京オリンピックの誘致に浮かれ、沖縄の米軍基地問題は地元民の悲しみを無視したまま辺野古への移設に近づき、そして特定秘密保護法が可決され、集团的自衛権が容認されようとしています。このような時代社会に私たち一人ひとりに何が問われ、何が求められているのでしょうか。

顕明師は著書の『余が社会主義』で「此の闇黒の世界に立ちて救ひの光明と平和と幸福を傳道するは我々の大任務を果すのである。諸君よ願くは我等と共に此の南無阿弥陀仏を唱へ給ひ」と念仏の声をあげられております。その念仏の声を聞くということは、私たちが作り上げたこの火宅無常の「暗黒の世界」に一人ひとりが責任をもつことであり、「救ひの光明と平和と幸福を傳道するは我々の大任務を果す」ことではないかと顕明師から問われているということではないでしょうか。

この法要が私たち自身を問い直し、私たちが生きている社会を見直していく機縁になることを切に願っております。